

第6学年A組 外国語活動学習指導案

授業者 藤田 峻 (HRT), Roberto Bonilla (ALT)
研究協力者 佐々木 雅子
教材分析協力者 佐々木 和貴, Adrian Paterson

1 単元名 留学生とふるさと紹介をしよう

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

外国語活動についてのアンケート(5/8実施)を行ったところ、9割以上の子どもが外国語活動の授業に楽しんだり進んで参加したりしている。また、学級の約8割以上の子どもが学校以外の場で英語を習っている経験があり、多くの英語に慣れ親しんでいる。

前単元の学習では、「Who am I?クイズ」作りのお題に秋田のなまはげを入れた際、どのように伝えたらよいか戸惑う子どもが多く見られた。また、自分たちもよく分からない難しい表現を用いて伝えようとする姿が見られた。自分の考えや気持ちを伝えられるように、知っている表現や語彙を活用する経験を増やす必要がある。

(2) 単元について

本単元では、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする資質・能力を高めることを目指す。

そのため本単元のゴールに、秋田に来た留学生とお互いのふるさとについて紹介し合う活動を設定した。秋田のことを詳しく知らない相手に、自分たちのふるさとを伝えるという目的が生まれると、必要感のある中で活動を進めることができると考えたためである。

また、リアルタイムでのコミュニケーションを楽しむ中で、自分の考えや気持ちなどをこれまでに慣れ親しんできた簡単な語句や基本的な表現を用いて話す経験につなげていく。

本単元は、「We Can! 2」のUnit2「Welcome to Japan. 日本の文化」及び、Unit4「I like my town. 自分たちの町・地域」をもとに構成している。留学生とのふるさと紹介を行うために必要な活動を通して、「This is ～.」「We have ～ in Akita.」「You can enjoy/see/eat ～.」「It's ～.」等の表現や、季節、味、調理方法などの語句に慣れ親しんでいく。子どもたちは、ふるさとの秋田県や、世界の国々の名称や位置などを、社会科や総合的な学習の時間などである程度学習している。他教科等で得た知識や体験などを生かして活動を展開することで、子どもの知的好奇心を更に刺激できると考える。

(3) 指導について

先述の資質・能力を育むために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに着目し、それらに応じて英語の表現から適切なものを選んで自分のことを伝えるという「見方・考え方」を働かせた学習活動を単元の中に意図的に位置付けていく。

単元の導入では、秋田に来た留学生とお互いのふるさとについて紹介し合うことが学習のゴールであることを示す。子ども自身が学習の見通しをもつことで、より主体的に学び続ける姿につなげたい。第2・3・4時では、カルタやクイズ等を通して、秋田の行事、名所、食べ物等について説明するために必要な、語句や英語表現に十分に慣れ親しむ活動を中心に行う。また、紹介カード作りに向けて、十分に慣れ親しんだ表現を書く活動も取り入れる。

本時となる第5時では、留学生が知りたいことに応じて、自分が知っている英語の表現や語彙を選んで伝えるという「見方・考え方」を働かせながら、グループで発表のリハーサルを行う。授業の導入では、子どもが留学生の知りたい秋田の情報について捉えることができるように、メッセージ動画を視聴する。その後、留学生の知りたいことに応じて、グループで伝えようとする内容を整理し、「仲間との対話」を通して試行錯誤しながら、自分の考えや気持ちを既習の語句や英語表現を用いて話す活動を行う。また本時は、活動の中でタブレット型端末の録画機能を活用する。自分の発表を客観的にふり返り、より他者に配慮した発表を行うことにつながると考える。そして、活動の途中には、中間評価の場を設定し、「対話」を通して紹介する内容や表現を確認し合う時間を保障する。

第7時には紹介カード作りを行うが、交流会に参加することができなかった留学生に向けて、自分たちの紹介を伝えるという目的をもたせることにも配慮して指導していく。

- 3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉
- (1) ふるさとの行事や名所, 食べ物等について紹介する語句や表現に慣れ親しむ。 (イ)
 - (2) 相手が知りたいことに応じて, 慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて, ふるさと紹介で伝える内容や表現を工夫する。 (14, 20, 22)
 - (3) 相手が知りたいことに応じて, 自分が見つけたふるさとのよさを伝えようとする。 (オ)

4 単元の構想 (総時数 7 時間) ※「見方・考え方」を働かせた学習活動

Unit 6 I want to go to Italy. (5 年生) Unit 1 This is ME! 自己紹介

※ CT: チャレンジタイム英語(朝の15分活動)の時間

時間	学習活動	教師の主な支援 (H): HRT, (A): ALT	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	<p>(1) 単元のゴールを確認しコミュニケーションの目的や場面, 状況を捉え見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">単元のゴール: 留学生とふるさと紹介をしよう!</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを想起しながら単元のゴールをイメージできるよう, 既習表現を取り入れたふるさと紹介の仕方を例示する。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への関心・意欲を高め単元の見通しをもっている。(イ)
2	<p>(2) 秋田の行事や名所, 食べ物等についての語句や紹介する表現に慣れ親しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音声と意味を結び付けられるよう, 写真を用いて十分な音声の慣れ親しみを促す。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで秋田のことを表現する語句に慣れ親しんでいる。(イ)
3	<p>(3) 前時に学習した語句を主に用いて「We have ~ in Akita.」の表現に慣れ親しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・We have の後に続く語句を入れ替えることで, 応用できると気付けるよう, クイズやカルタの活動で十分な音声の慣れ親しみを促す。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した語句を用いて, 秋田にあるものを聞いたり話したりしている。(イ)
4	<p>(4) 前時まで学習した語句や表現を用いて「You can ~.」「It's ~.」の表現に慣れ親しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを整理した上で自分の考えを伝えることができるよう, Small Talk で話型を示す。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田のよさを伝える語句や表現を聞いたり話したりしている。(イ)
CT	<p>・ふるさと紹介を行う内容を決める。</p>		
5 本時	<p>(5) グループごとに留学生との交流に向けて紹介する表現を考え, リハーサルを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションやリハーサルの場を意図的に設定し, 児童が試行錯誤しながら, より具体的な紹介ができるよう促す。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の知りたいことに応じて, 秋田のよさを紹介するための表現を工夫している。(14, オ)
6	<p>(6) 留学生とお互いのふるさと紹介をしながら交流をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に伝えようとする姿を称賛し, 留学生とのふるさと紹介が楽しめる雰囲気づくりをする。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にお互いのふるさとについて尋ねたり答えたりしている。(14, オ)
7	<p>(7) 交流会に参加できなかった留学生に向けてふるさと紹介カードを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会に参加できなかった留学生に向けて, 自分が紹介したことを紹介カードに書く目的をもたせる。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写すことができる。(22)

◎本単元で育む主な資質・能力
慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて, 実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。(オ)

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに着目し, それらに応じて英語の表現から適切なものを選んで自分のことを伝える。

Unit 7 My Best Memory (スカイプで海外の小学生と学校行事について交流)

5 本時の実際 (5 / 7)

(1) ねらい 留学生が知りたいことに応じて、自分が見つけたふるさとのよさを紹介するために表現を工夫する。 (14, オ)

(2) 展開 ○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価 (H) : HRT, (A) : ALT
3分	① ウォームアップをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で活動を始められるように、児童同士で挨拶し合う場を設定する。(H) & (A) ・チャンツをリズムに合わせて言えたことを称賛し、次の活動への意欲付けを図る。(H) & (A)
5分	② ALT のふるさと紹介を聞き、本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ語句や表現を使い、話型を例示することで、紹介の参考にできるようにする。(H) & (A)
Today's Goal : 交流会に向けて、Best of ふるさと紹介を作り上げよう！		
5分	③ 留学生からのメッセージ動画を視聴し、留学生が知りたいと思う秋田のことについて具体的に捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生が知りたい情報を具体的に捉えることができるように、メッセージ動画を提示する。食べ物や祭りの中でも、①時期や場所、②味、③調理方法、といった内容が求められていることを確かめる。(H)
10分	④ 三つのキーワードの中から自分たちの紹介に必要なだと思う内容について選択し、伝える表現を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ spring / summer / autumn / fall / winter ・ sweet / bitter / sour / salty / spicy / rich / oily ・ fry / boil / stew / bake / mash / saute / add / cut 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで紹介に必要なと思う内容を選択することができるように、留学生が知りたい情報を基に、① When / Where, ② Taste, ③ How do you make it? のキーワードを提示する。(H) ○それぞれの質問項目に対して、試行錯誤しながら具体的な紹介へとつなげていくことができるように、全体の前でシミュレーションを行う場を設ける。(H) & (A)
15分	⑤ グループごとに1分間でふるさと紹介を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Hello. My name is ~. We have ~ in Akita. This is ~. You can ~ in ~. It's ~. Thank you. Bye. (+ α) ・ Taste ・ How to make. 	<ul style="list-style-type: none"> ○知りたいことを紹介することができているか、確かめることができるように、紹介に含まれる内容(①挨拶・自己紹介をする。② We have ~. You can ~. It's ~. の表現を入れる。)を具体的に示す。+ α で内容の説明ができそうな場合は、積極的に取り入れるよう促す。紹介の時間を1分間にし、繰り返すことで、スムーズな発表につなげる。(H) & (A) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>留学生が知りたい秋田のよさを、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、具体的に紹介している。 (14, オ) (行動観察・発言・動画)</p> </div>
7分	⑥ 本時の活動をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとのよさを紹介するために、工夫したこと、改善点を自覚するための視点を示す。(H)